

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570400335		
法人名	医療法人和真会		
事業所名	グループホームわかば		
所在地	宮崎県日南市上平野町2丁目8番地20 (電話) 0987-22-5656		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年11月19日	評価確定日	平成20年12月26日

## 【情報提供票より】 (平成20年10月23日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 8年3月11日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤6人, 非常勤2人, 常勤換算7.2人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (4) 利用者の概要(平成20年10月23日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	3	要介護2	1
要介護3	3	要介護4	0
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 85.5歳	最低 75歳	最高 94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	東内科クリニック、安部歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

透析のクリニックが経営母体であり、透析患者の受け入れ態勢が整っていることが、まず最大の特徴といえる。建物は、屋内外とも木材を多く取り入れ、温かい雰囲気醸し出している。高い天井、採光に配慮された天窓、3箇所のトイレ、複数の洗面所、適度な居室以外で一人になれるような空間の配置、トイレ・浴室等の十分な手すりの設置など、ハード面でも利用者が過ごしやすい環境への心配りが随所に感じられる。一方、職員の利用者への言葉かけや関わりは、介護職の大半が介護福祉士の資格取得者で、生活全般への気配りと利用者へのいけいの念が率直に伝わってくるような雰囲気があった。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域交流の一環としての2か月に1度のホーム便りの発行を実現するとともに、回覧版による周辺住民への配布も行われている。地域密着型を意識して、理念に地域との交流と貢献への努力が盛り込まれた。各居室には、適度になじみのものがそれぞれ持ち込まれ、その人らしい部屋の演出が行われている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価に向けて、管理者が各職員に自己評価を行ってもらい、それを集約する形でホームとしての自己評価が作られている。前回の改善課題についても、ホーム全体で積極的に改善に取り組み、少しずつではあるが着実な成果を上げつつある。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議においては、ホームの現状報告のみならず、運営等に関してもかなり深い意見交換ができるところまで相互の信頼関係が醸成されつつある。運営推進会議の翌日には、管理者がミーティングにおいて詳細を報告し、改善策等の協議が行われている。実際に、運営推進会議の指摘を受け書類の様式の変更等を行っている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時には、職員が湯茶等の提供を通して積極的に声をかけるように心がけ、ホームでの出来事の報告を随時行うとともに家族の思いや希望あるいは、苦情等に耳を傾けている。日常的な申し送りの中で意見や苦情が職員から報告されている。ただ、開所して2年半になるが、苦情報告書への具体的な記載が現状では、まだ行われていない。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に入り、地区のバレーボール大会や生き生きサロン等に参加している。更に広報誌を回覧版で回してもらい、ホーム主催の夕涼み会等への地域住民の参加を常に呼びかけているが、まだ多くの参加者を得るまでには至っていない。一方で火災訓練等の地域へのお知らせを通して、地域住民の思いがけない参加を得るなど、少しずつこれまでの働きかけが実を結びつつある感触も得ている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員の大半が介護福祉士資格を有しており、透析患者への受け入れを理念に掲げるなど、質の高いサービスの提供に向けた努力が行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型への移行を踏まえ、理念に地域との交流及び貢献を加えるとともに、毎朝の朝礼時に職員全員で理念の復唱を行い、意識付けの徹底が図られている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、地区のバレーボール大会や、生き生きサロン等へ参加している。ホームの行事に関しては、広報誌を回覧版で回すなどして周知を図っているが、まだ近隣住民の積極的な関与を実現するまでには至っていない。	○	近隣の中学校との交流会等も始まっているので、それらを基礎に介護教室の開催や介護相談等の受け入れなど、ホーム側から地域に向けた更なる取り組みに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の外部評価に向け、職員全体で自己評価の内容を理解し、それを管理者が集約して評価を実施している。昨年の改善課題の改善についてもこの1年積極的に取り組み、サービスの向上につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の翌日のミーティングにおいて管理者が詳細な報告を行うとともに、改善事項等について協議を行い日々の実践に生かしている。既に、運営推進会議の意見を受けて、ホームにおける書類の様式の改善等を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム運営上の疑問や行政への要望等日常的に相談できる体制ができている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者のホームでの様子に関しては、2か月に1回発行している通信や家族来訪時に直接職員ができる限り伝達している。金銭管理に関しては、基本的に利用者からは千円程度を預かり、必要なものを購入し、家族の来訪時に家族の確認印を極力もらうようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や来訪時の家族からの積極的な聞き取り等で、意見や苦情を受け止めようとする姿勢はあるが、開設後2年余りを経た現在も特に苦情処理簿に記載は行われていない。	○	日常的な利用者や家族等とのささいな会話の中から家族の思いや苦情を受け止め、それを記録に残し、職員全体でそれに対処していく体制の強化を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初は1年に数名程度の職員の異動等があったようであるが、ここ1年では2名程度と落ち着き職員が定着しつつある。異動のある場合も、どうしても伝える必要のある人のみに伝え、利用者にとって不必要な動揺の広がらない工夫を行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修に関しては年間計画を立ててできる限り年1回は研修に出られるような体制を作りつつある。また、これまでに3名の職員が実践者研修や管理者研修を受講しており、取り組みの意欲が感じられる。ただ、初任者の研修が必ずしも入職後適切な時期に、行えていない現状がある。	○	常勤、非常勤に関わらず、職員の経験等を考慮して適切な研修への参加機会の確保に更なる努力を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県南部のグループホームの管理者に呼びかけて、7月に交流会を実施している。現在これを基盤に他職種の日常的な交流の場の確保に向け準備が行われている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現状では、予備の部屋が無い体験宿泊が難しい現状がある。また、日中の体験入居に関しても自治体との調整が上手くいかず、実現を見ていない。	○	ホームへの入居はそれまでの生活とは大きく環境が変化するので、利用者の不安感は強いと思われる。よって、少しでも安心して入居するための事前体験の機会の確保に更なる工夫を期待したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護経験の豊富な職員が多いこともあり、自然な会話のやり取りの中で、共に生活を楽しむ姿勢が伝わってくる。そして、他人行儀ではない丁寧な会話の端々に利用者から多くのものを学んでいると言う職員の思いが伝わってくる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的には、利用者の意向を極力受け止めるよう聞き取りを行っている。アセスメントシートをこまめに取ることで、客観的な意向の把握に努めている。また、毎日レクリエーション担当者を配置して、生活に変化を持たせ意欲を引き出す取り組みも行われている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランについては、利用者、家族の来訪時の聴き取りが積極的に行われている。日々の記録に関しても個々のケアプランに対応した記録を心がけて、利用者のこまやかな状態把握に基づくプラン作成が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には、3か月ごとのプランの見直し及び毎月のモニタリングが、記録を工夫してこま密に行われている。また、状態の変化に対応した随時のプラン変更も柔軟に行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が透析病院であることを生かして、透析患者の受け入れに力を入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、従来の掛かりつけ医との関係を最大限生かして、受診の支援等に当たっている。また、掛かりつけ医による往診や日常的な情報交換を通して、利用者の健康管理に配慮が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針が用意され、入居の時点で家族との基本的な確認が行われている。ターミナルに向けた家族からのアンケートも計画されている。	○	高齢化、重度化が予想されるこれからのグループホームの現状を考えた時、医療機関を母体を持つホームとして、ターミナルのケースをどのように支援していくか先進的な取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	とにかく利用者への言葉かけに関しては、丁寧で利用者の尊厳に配慮した対応が行われている。日誌等も事務室の鍵のかかる書棚に保管され、プライバシーや個人情報の保護に関しても心配りが感じられる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な毎日のスケジュールやレクリエーションの予定等は一応あるが、極力利用者の意向や体調等に配慮した柔軟な支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	器が一人ひとりステキな色合いのお盆に乗せられ、楽しい食事を演出してる。食事に関しては、職員も全員一緒に同じ物を食べ、会話しながらの和やかな雰囲気がある。ペースト状の食事を一つ一つ説明しながら優しく介助している職員もあり、緩やかな時間の流れを感じる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に関しては利用者の意向に即し、随時希望の時間帯に入れるようになっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後のお盆拭きや洗濯物をたたむお手伝い等が、利用者の意向と能力に即した形で自然に提供されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は天候の許す限り歩行器等も使って、ほとんど毎日散歩に出かけている。年3回程度は全員で花見や紅葉狩り等に出かけるほか、図書館への本を借りに行く際やちょっとした買い物等に個人を連れ出してもいる。	○	今後、近隣の商店にみんなで買い物に出かける機会等を作っていくと、地域の中にグループホームの存在を理解して頂く一つの契機につながっていくと考えられる。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝の全職員によるミーティング時や、昼食後の職員の休憩が入る時間帯に一時的に掛ける事があるが、それ以外は基本的に開放している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を実施している。また、消防署等を招いて救急蘇生法の勉強等も行われている。先日、火災訓練を行うことを地域に報告したところ、思いがけず近隣の方が見学等にも訪れている。	○	今後、近隣への訓練の報告のみならず、災害発生時の地域住民による避難協力と、自治会や警察等も巻き込んで、共同して火災及び災害訓練等の行える体制の整備に期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に水分の摂取に気を配り、食後等機会あるごとにお茶等の水分の提供が行われている。献立は、母体病院の栄養士が作成しており、健康面への配慮も十分である。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体の建材に木材を多用して温かい雰囲気醸し出されている。天井が高く天窓が随所に配置され、採光も十分取り入れられ安らぎのある空間となっている。屋内に居室以外で、適度に一人になれるような空間も用意されており長期に生活していく場としての心配りが感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはどの部屋も自由に個人の持ち物が持ち込まれ、家族や利用者の写真等も随所に貼ってあり、居心地よく過ごせる工夫がある。利用者及び家族の了解が得られた人については部屋の入り口に、大きな顔写真もあり、集団として生活しながらも、個人の生活もきちんと確保されており、その境界の適度な区別に好感が持てる。		

※  は、重点項目。